

詠む広場

毎日俳壇

井上 康明 選

神寛ますてく神輿を揺さ振りぬ

▲評▽夏祭りでは、災厄をはらい
豊作を祈ってみこしを担ぐ。荒ぶ
る神の目を寛まそうとみこしを揺
さ振って、祭りは高潮を迎える。
仇敵といふものなし今年竹

東京 望月 清彦

▲評▽今年生育した竹は、互いに
恨む宿命の敵などいない。真つす
ぐ空へ向かって伸びてゆく。
傾けて倒してヨットレースかな

浜松市 久野 茂樹

夏真昼己が影踏む車椅子

沼津市 麻場 育子

大石に仰向けの子ら川プール

甲斐市 松田 健嗣

台風の影響同じ日に二つ

横浜市 斎藤 山葉

漣が駆け抜けていく植田かな

西海市 まえだいつそう

肩車狗尾草を手放さず

川崎市 久保田秀司

末つ子の寝顔母似てアマリリス

伊勢市 藤井 信弘

一本が頭張つてゐる蜘蛛の糸

富士宮市 矢野 悦子

片山由美子 選

かぶと虫死んで少年また独り

▲評▽カブトムシを友として過ご
していた昆虫好きの少年なのであ
る。「また独り」の「また」に、
孤独の深さがつかえる。
あの世へと誘ふ烏瓜の花

越前市 加藤 隆規

▲評▽夕方おもむろに開く白いレ
ースのような花は、この世のもの
とは思えない美しさなのだ。
苔の花ひそと薄日の差すところ

尾崎市 森下久美子

雨雲の去りて毛虫の動き出す

福岡 手島喜美江

ゆるやかに我が身老いゆく半夏生

奈良市 伊東 勝

病床の子規も描きし日草

川口市 高橋さだ子

炎天に切り離されて残る貨車

我孫子市 新井 貴雄

ゆつたりと締めて形見の単衣帯

和歌山市 藤池 芳子

黙礼をしてたたみたる白目傘

越谷市 岩永トヨノ

レース着て八十路の腕を憐れぬ

中間市 升水恵美子

小川 軽舟 選

根元から倒れし老樹梅雨に入る

▲評▽倒木のニュースが増えてい
る。予防的に伐採される木が多い
のも傷ましい。大樹が消えて梅雨
空だけがぼつかり残る。
まくなきと貨物列車の通過待つ

行田市 吉田 泰代

▲評▽好きでまくなきと一緒待
つわけではない。早く踏切が開か
ないものか。
山の朝涼雨の中へ出立ちぬ

桜井市 山本 棕士

肩書に縁なき家系蟻の列

可児市 鷺津 誠次

青田風駅に列車のすれ違ひ

牛久市 笹野 泰弘

展覧会出れば一閃夏つばめ

水戸市 井川 水衛

月光の森の精霊苔の花

中間市 黒石みずほ

夕立の去りて日を吸ふ砂利の道

新座市 睦月くらげ

牛乳を配るバイクや夏の雲

奈良市 浦城 亮祐

すれ違ふポニーテールや新樹光

北杜市 白川美知子

西村 和子 選

赴任地へ戻る月曜朝べもり

▲評▽「ひでりの朝曇り」と言わ
れるように、日中は晴れて暑くな
る。単身赴任の厳しい週日が始ま
ることを季語が語る。
新喜劇見に出てゆくや梅雨最中

岡山市 和田 大義

▲評▽うつうつしい気分を笑いで
吹き飛ばそうという行動。梅雨が
長い今年は殊に共感を呼ぶ。
ゆくりなく右に左に遠花火

相模原市 はやし 央

今宵又蛭となりて裏庭に

和歌山 馬谷富貴子

初夏の風に磨かれ牧の馬

横浜市 相沢恵美子

岩陰に山椒魚は岩となる

倉敷市 中路 修平

虹立ちて腹の底より球団歌

秋田市 吉行 直人

早苗響も昔語りとなりけり

神戸市 岸下 庄一

森を出て広野へひらく白目傘

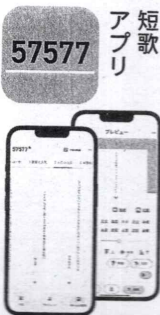
川口市 高橋さだ子

樹を降りてポケットの蟬取り出せり

福岡市 山本 真弓

アプリで 推し短歌

短歌アプリ「57577」の投稿からユーザー人気をふまえて歌人の天
野慶さんが選歌と評を担当します。金3首、銀3首を掲載し、他の
選歌はアプリ内で紹介します。アプリは右のQRコードから。



お題「文」

(投稿数1000番)

・残り五分 本文中から抜き出したきみ
の笑顔は初夏めいて 柚子ぼんず
集中してテスト問題に取り組んでいる
ときに、突如耳に入る先生の声。その瞬
間、今書きだしたばかりの文字が存在感
を増してきます。文中の人物の笑顔から
季節を感じる感受性がすてきです。
・この胸にきらめく文字が満ちるときじ
やがいもささも惑星になる 白蜜

きらめく文字たちのおかげでどれほど
世界が変わったか。下の句でどんな例え
をだすが、大事なポイント。雄大であ
りながらユーモラスでもある「ジャガイ
モからの惑星」の飛躍が効いています。
・言の葉がはらはら舞ってしまつから思
いがけない乱文になる 大森朋美

思いがうまく言葉にできずまごまごな
い様子を、舞い散る「言の葉」たちのイ
メージに重ね合わせました。カフールな
落ち葉たちのような乱文なら、定型の古
びた言の葉よりもずっと魅力的です。
・広告の文字にいつしか恋をして「コピ
ライター」夢見ていた日 美木麻

・片付けをしてたら出てきた文集の夢に
よつやく会えた気がする ちえ
・雨上がり傘をたたんで歩く道「」の
続きを確かめてみる 華原かのん
次回のお題「目」(8月31日掲載)